

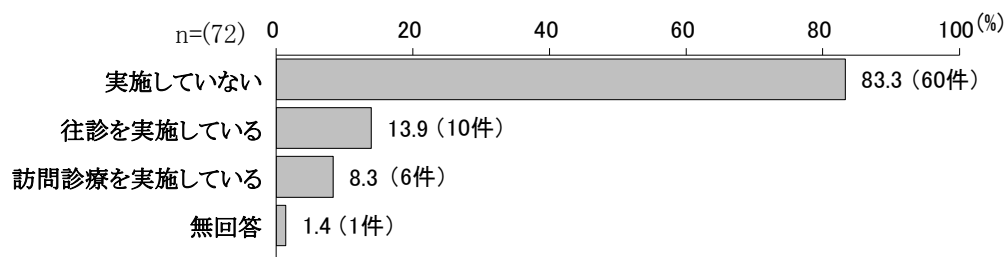
第 2 章 医科調査結果

1. 在宅診療に関することについて

(1) 在宅診療の実施状況

(1) 現在、在宅診療（訪問診療・往診）を実施していますか。（○は2つまで）

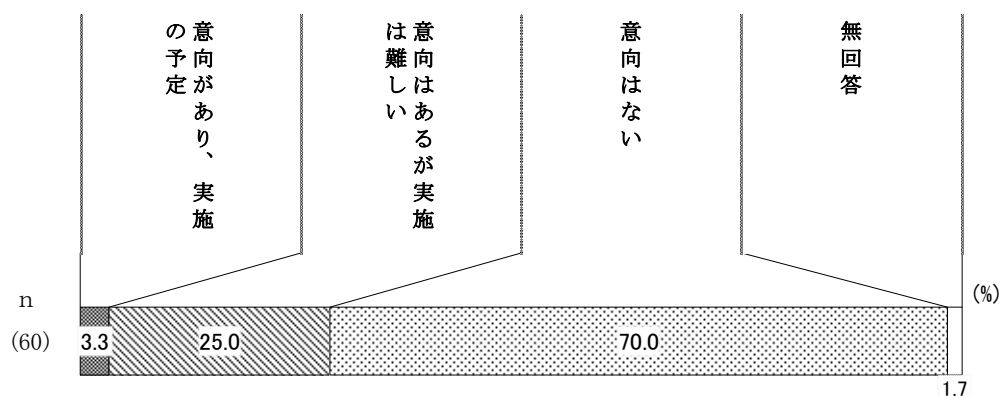
在宅診療の実施状況は、「実施していない」が83.3%、「往診を実施している」が13.9%、「訪問診療を実施している」が8.3%となっている。



(2) 在宅診療の今後の取り組み意向

(2) (実施していないとお答えの場合) 今後、取り組む意向はありますか。

在宅診療を実施していないと回答した機関に、今後の取り組み意向を尋ねると、「意向があり、実施の予定」が3.3%、「意向はあるが実施は難しい」が25.0%、「意向はない」が70.0%となっている。



第2章 医科調査結果

○実施予定の理由

実施予定の2機関にその理由を尋ねたところ、以下の通り回答を得た。

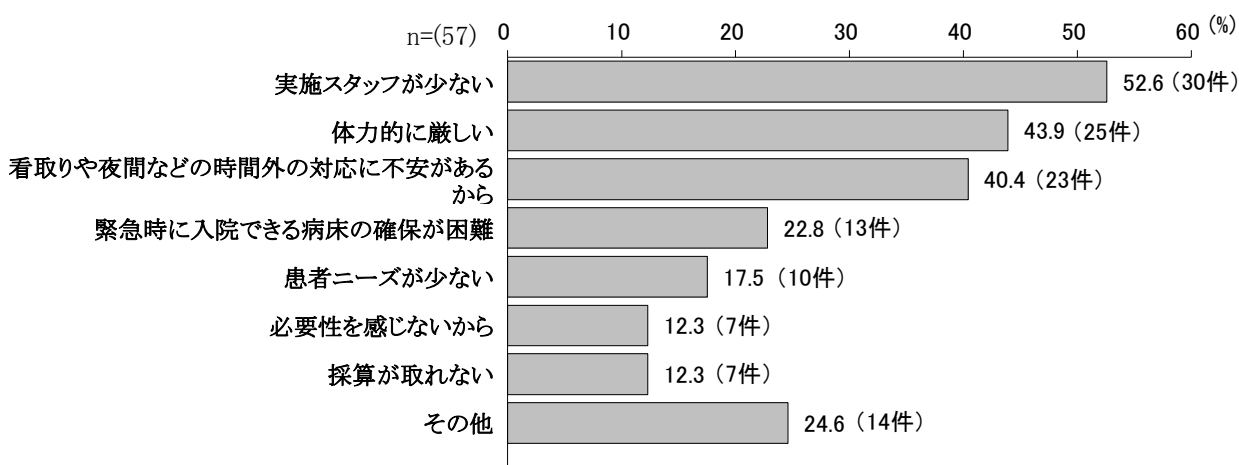
調査数	後、訪問医療を増加する必要があると思われる患者から	現在の患者からの希望があるから	経営状態がよくなりそうだから	在宅医療に対する地域住民の意識が高いため	(件)
					その他
2	1	1	-	-	1

その他の内容

中長期計画で検討中

○実施は難しい、意向はない理由

実施は難しい、意向はないと回答した57機関にその理由を尋ねたところ、「実施スタッフが少ない」が52.6%で最も高く、次いで「体力的に厳しい」が43.9%、「看取りや夜間などの時間外の対応に不安があるから」が40.4%となっている。



その他の主な内容

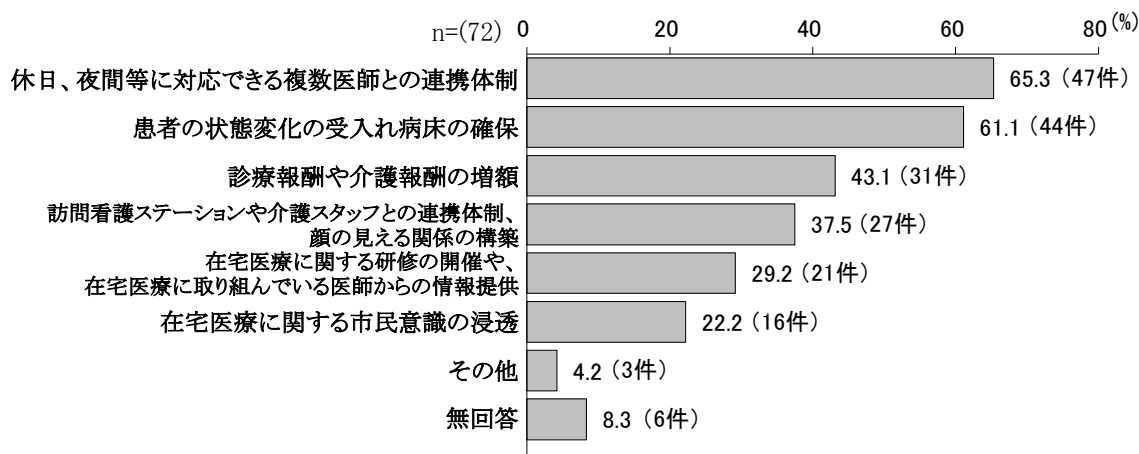
時間的に難しい	4 件
体制を整えるのが難しい	4 件
診療科の性格上、往診での診断では正確性が低く困難	1 件
皮膚科としては余り必要ないかと思う	1 件
交通手段の確保が困難	1 件

(3) 三鷹市の在宅診療を行う医師を増やすために必要だと思うこと

(3) 今後、三鷹市において在宅診療を行う医師を増やすために必要なことは何ですか。

(○はいくつでも)

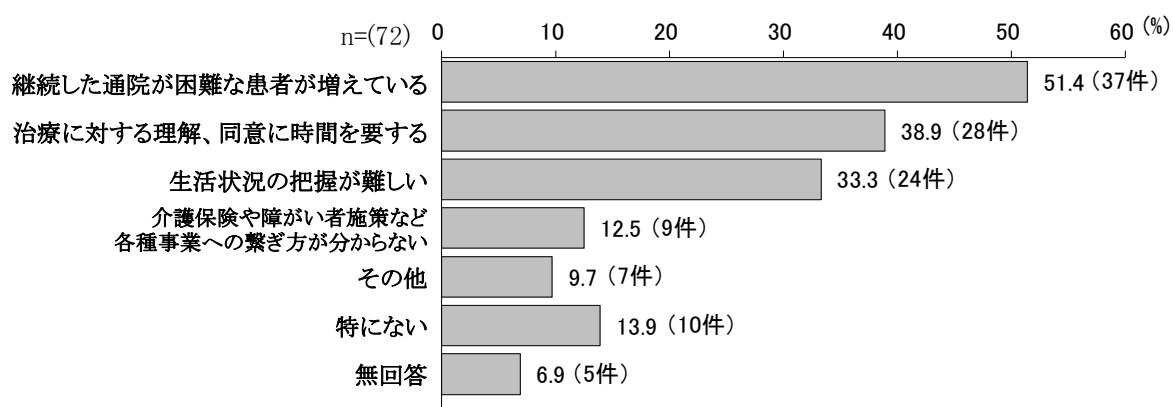
三鷹市の在宅診療を行う医師を増やすために必要だと思うことは、「休日、夜間等に対応できる複数医師との連携体制」が65.3%で最も高く、次いで「患者の状態変化の受入れ病床の確保」が61.1%、「診療報酬や介護報酬の増額」が43.1%となっている。



(4) 患者の高齢化に伴う診療上の困難さや課題等

(4) 患者の高齢化に伴い、診療上感じる困難さや課題等がありますか。(○はいくつでも)

患者の高齢化に伴う診療上の困難さや課題等は、「継続した通院が困難な患者が増えている」が51.4%で最も高く、次いで「治療に対する理解、同意に時間を要する」が38.9%、「生活状況の把握が難しい」が33.3%となっている。



2. 在宅診療の実施状況及び今後の意向について

(1) 在宅診療可能時間

(1) 在宅診療可能時間をお答えください。(〇はいくつでも)

在宅診療可能時間は、「診療時間内」が8件、「相談に応じ、診療時間外も可能」が7件、「日、祝日の対応可」が1件となっている。

(件)				
調査数	診療時間内	相談に応じ、診療時間外も可能	日、祝日の対応可	その他
11	8	7	1	1

その他の内容

診療時間外のみ

(2) 在宅診療可能な範囲

(2) 在宅診療可能な範囲をお答えください。(〇は1つ)

在宅診療可能な範囲は、「所在市区町村のみ」が5件、「所在市区町村外も可」が3件となっている。

				(件)
調査数	所在市区町村のみ	所在市区町村外も可	所在地から10kmの範囲まで	その他
11	5	3	1	2

○「所在市区町村外も可」記載市町村

武蔵野市のみ

1件

その他の主な内容

車で15分以内で行ける範囲

1件

特定の施設への往診

1件

(3) 在宅診療の条件

(3) 在宅診療の条件をお答えください。(〇はいくつでも)

在宅診療の条件は、「病院からの依頼がある場合」が8件、「自院にかかりつけの患者のみ」が6件、「地域包括支援センターや訪問看護ステーション、ケアマネジャーからの依頼がある場合」が5件となっている。

調査数	(件)					
	病院からの依頼がある場合	自院にかかりつけの患者のみ	地域包括支援センターや訪問看護ステーション、ケアマネジャーからの依頼がある場合	希望する人は誰でも	近隣に居住している人	その他
11	8	6	5	3	2	-

(4) 平成29年10月の往診の実施状況

(4) 平成29年10月の往診の実施状況を数字でご記入ください。(ない場合は“0”とご記入ください)

平成29年10月の往診の実施状況は、施設ごとにまとめると、以下の通りとなっている。

(件、人)		
No	件数	患者数
1	9	10
2	7	7
3	7	5
4	3	-
5	2	10
6	1	1
7	1	1

※件数0件の機関を除く

※「-」は無回答

(5) 平成29年10月の訪問診療の実施状況

(5) 平成29年10月の訪問診療の実施状況を数字でご記入ください。(ない場合は“0”とご記入ください)

平成29年10月の訪問診療の実施状況は、施設ごとにまとめると、以下の通りとなっている。

(回、人)

No	訪問回数			訪問患者数		
		(うち施設)	(うち居宅)		(うち施設)	(うち居宅)
1	87	32	55	41	17	24
2	21	3	18	16	2	14
3	8	0	8	4	0	4
4	7	0	7	7	0	7
5	1	0	1	1	0	1

※訪問回数0回の機関を除く

(6) 在宅診療についての今後の意向

(6) 在宅診療について今後の意向をお答えください。(○は1つ)

在宅診療についての今後の意向は、「拡大を希望」が3件、「現状維持」が7件、「縮小、又は辞めたい」が1件となっている。

(件)

調査数	拡大を希望	現状維持	縮小、又は辞めたい
11	3	7	1

3. 在宅医療・介護連携に関することについて

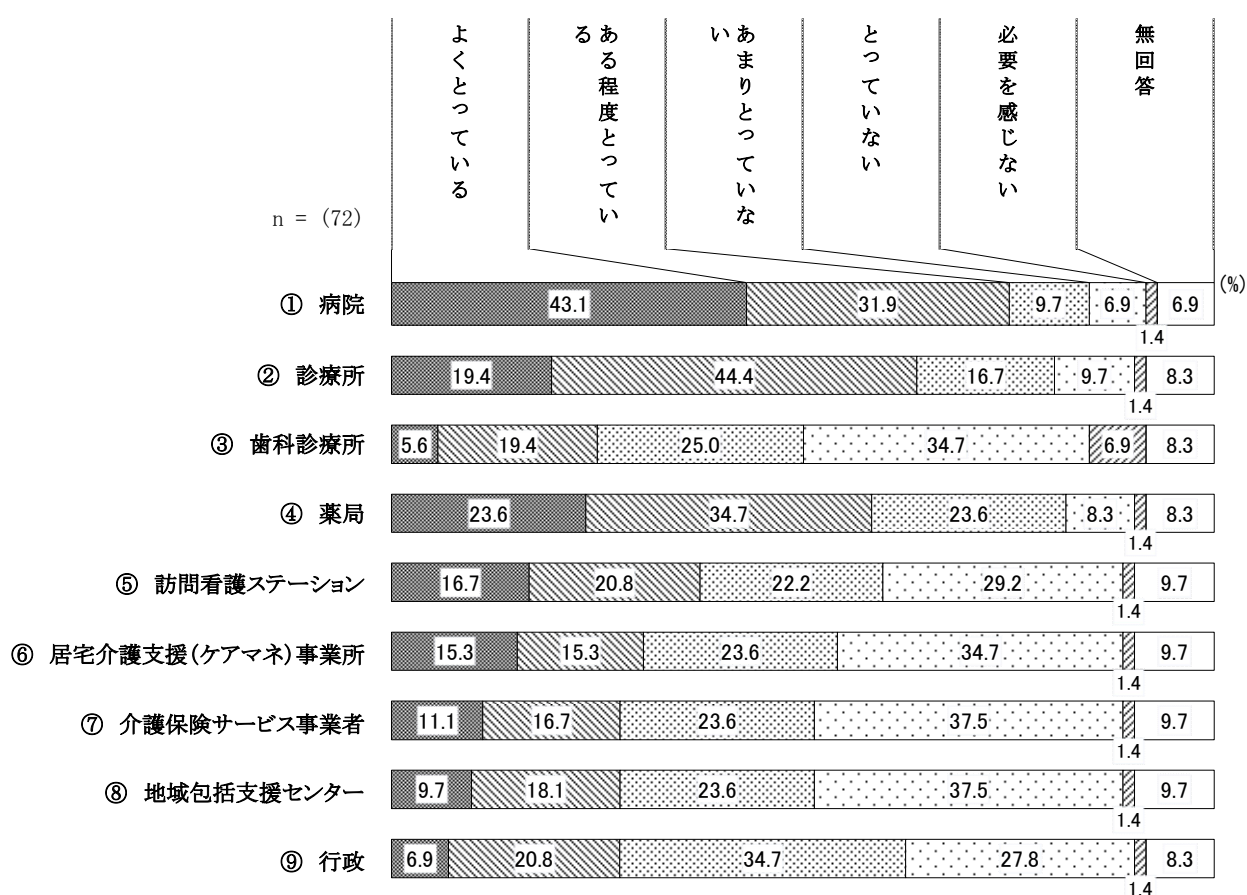
(1) 関係機関への連携状況

(1) 患者の情報について、次の関係機関への連携状況をお答えください。

(①～⑨それぞれ1つに○を付けてください。)

関係機関への連携状況は、「よくとっている」と「ある程度とっている」を合わせた『とっている』は、【①病院】(75.0%)で最も高く、次いで【②診療所】(63.8%)、【④薬局】(58.3%)となっている。

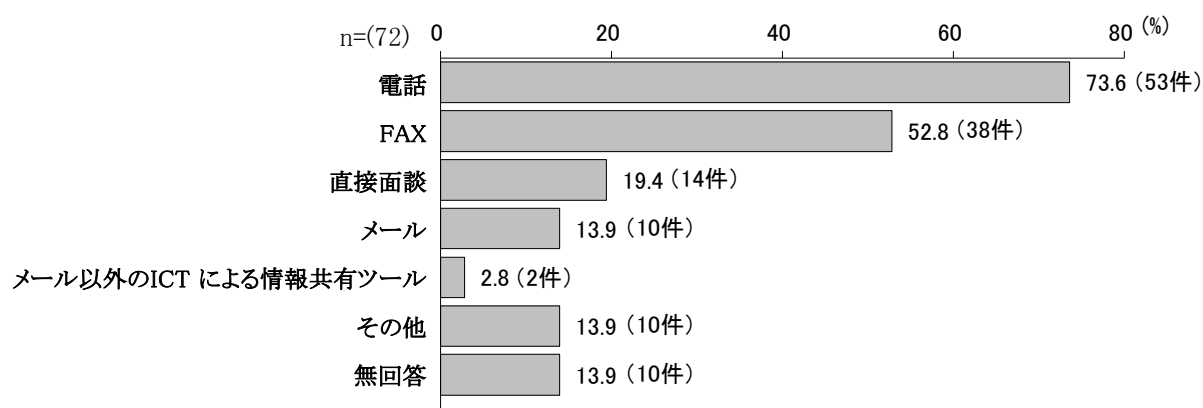
一方、「あまりとっていない」と「とっていない」を合わせた『とっていない』は、【⑨行政】(62.5%)で最も高く、次いで【⑦介護保険サービス事業者】(61.1%)、【⑧地域包括支援センター】(61.1%)となっている。



(2) 連携方法

(2) どのような方法で連携を図っていますか。(〇はいくつでも)

関係機関との連携方法は、「電話」が73.6%で最も高く、次いで「FAX」が52.8%、「直接面談」が19.4%となっている。



その他の主な内容

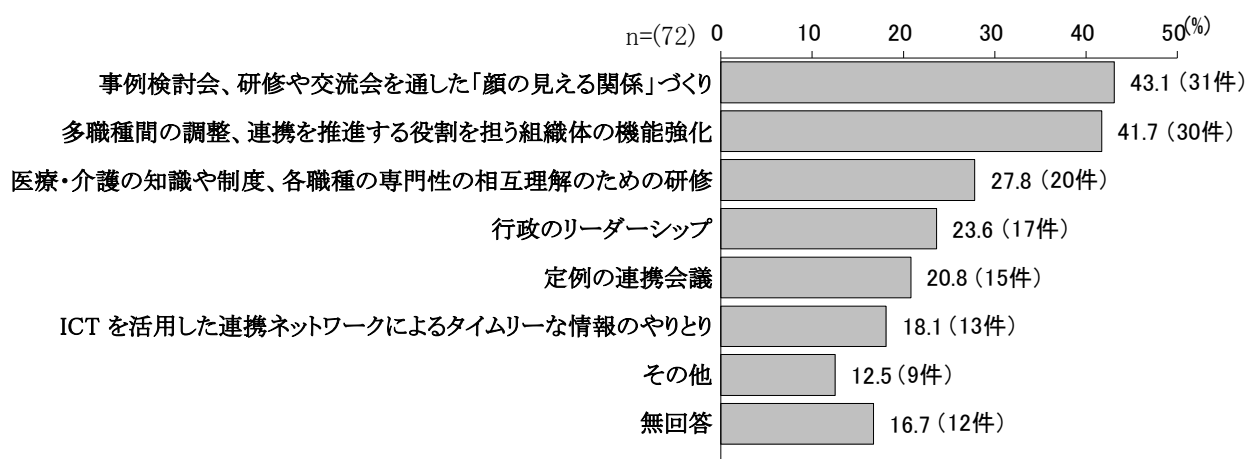
紹介状、文書、手紙	8 件
研修会	1 件

(3) 在宅医療・介護連携を進めるために必要だと思うこと

(4) 今後、在宅医療・介護連携を進めるためには何が必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

在宅医療・介護連携を進めるために必要だと思うことは、「事例検討会、研修や交流会を通した『顔の見える関係』づくり」が43.1%で最も高く、次いで「多職種間の調整、連携を推進する役割を担う組織体の機能強化」が41.7%、「医療・介護の知識や制度、各職種の専門性の相互理解のための研修」が27.8%となっている。



その他の主な内容

わからない、特になし	5 件
包括支援センターの活用	1 件
医師の余裕	1 件
人材確保	1 件
国（行政）の本気度	1 件

(4) 自由意見

(5) その他、在宅医療・介護連携のために必要なことや工夫していることなどありましたら、ご自由にご記入ください。

自由に意見を求めたところ、以下の通り回答があった。

地域医療連携のさらなる充実をはかるためには予算の充実が何よりも必要であると思います。
患者様を増やそうと努力しているが、全然結果につながらない。
医師の立場として緊急時の病床の確保が解決されない限り如何なる連けいが成立っていても、実際には難しいことである、と思われる。
在宅相談、支援体制としての説明資料として、情報共有出来るノートの作成、急変時の緊急連絡先などを決めておく、などを家族に指導。
小児の在宅医療もニーズが増えれば対応したいところですが、マンパワーが必要なので現時点では予定はありません。
これらの情報は、「ひまわり」にすでに登録されています。御活用下さい。
質問の意味がよくわからないところがある。
年をとると在宅はなるべく減らしていきたい。24時間対応は不可。
会議は平日の診療時間内でやられると参加はできない。
他医療機関への訪問を行い、顔の見える関係作りをこころがけている。訪問看護ステーションとの合同事例検討会の実施により、連携を強化している。